

全科協ニュース

URL <http://jcsml.kahaku.go.jp/JCSM/>

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110-8718 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成11年3月1日発行(通巻第165号)

特集 教育普及活動を中心とした博物館の事業展開

— 愛媛県総合科学博物館 —

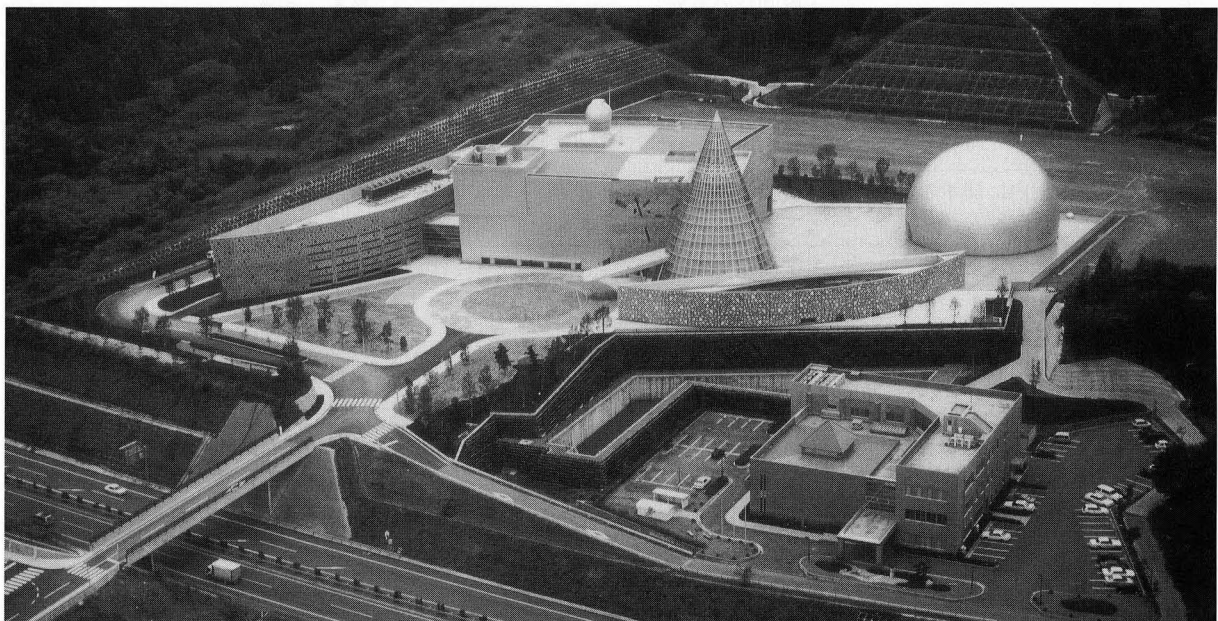
1. 愛媛県総合科学博物館の概要

愛媛県総合科学博物館は、自然史・理工・産業の各分野をカバーする科学系の博物館として、平成6年11月11日にオープンしました。当館は、愛媛県東部の工業都市である新居浜市に位置し、北四国中央部という地理条件と松山自動車道・西条 IC から至近距離という交通条件にも恵まれています。こうした好条件もあって、愛媛県内はもとより高速道路・本四連絡橋を通じて四国他県や山陽方面からも多数来館があり、開館後約3年半経過した昨年3月末には入館者100万人を達成しました。

当館は、近未来を感じさせる個性あふれるデザインの5つの建物(展示棟・プラネタリウム棟・生涯学習棟・レストラン棟・エントランスホール棟)で構成され、訪れる人に「科学系博物館」のイメージを喚起しています。博物館活動の中心となる展示棟には、「自然館」・「科学技術館」・「産業館」の3分野の常設展示室を設置し、愛媛の自然や産

業、そして科学技術一般について標本や模型を使って分かりやすく展示しています。また、展示棟には企画展示室もあり、企画展のほか各種催し物の会場となっています。プラネタリウム棟には、世界最大のドーム(直径30m)を持つプラネタリウムがあり、リピーター確保に大きな役割を果たしています。この他当館では、全国の博物館では珍しい生涯学習部門も併設しており、愛媛県東部地域における生涯学習の拠点として各種講座や講演会などの事業を実施しています。

当館の組織・職員に関して最大の特徴は、知事部局の所屬(生活文化部—文化振興課の出先)となっていることです。全国でも数少ない首長部局の博物館として、地域住民(県民)に対して当館の学芸活動の成果を様々な形で分かりやすく「還元」する博物館事業を展開してきました。これまで当館では、教育普及活動を中心とした事業展開を行ってきました。博物館の組織は、館長(非常勤嘱託)一副館長



愛媛県総合科学博物館(空撮)

(正職員)一総務課(正職5+臨職2)・振興課(正職8+臨職2+展示案内員15)・学芸課(正職14)からなります。学芸員は学芸課(14)と振興課企画普及係(3)の計17名が配置され、学芸課が資料収集や調査研究を、企画普及係が教育普及活動を担当しています。

2. 教育普及活動実施の考え方

前述の通り、当館では教育普及活動を中心とした事業を展開しております。開館以来、次の基本的考え方をもって様々な事業を行っており(表1)、入館者増・地域への還元・教育普及等の面で成果を挙げています。

(1) 学芸活動の成果の還元

いうまでもなく、博物館の主要業務は資料収集や調査研究ですが、博物館に対する地域からの期待や要望が高まる中で、その研究成果を分かりやすい形で人々(来館者・地域住民等)に還元することも、一層重要になっております。

当館では、博物館講座(自然観察会や科学工作教室等)を開催し、学芸員が調査研究を通して得た専門知識を受講者に分かりやすく解説したり、企画展・特別展の機会に標本・資料を通して学術成果を分かりやすく展示しています。

(2) 集客及び広報の一環として実施

博物館の入館者増を図り、館の知名度やイメージを上げるといふ集客と広報の役割を期待して、各種教育普及活動を実施しております。講演会・映画会の開催や各種事業(展示・共催事業等)の実施、広報誌(紙)の刊行が代表的です。

(3) 博物館を軸とした価値観の創出

地域社会において、学校教育とは別枠の価値観や評価基準を創出することを目的として事業を行っています。具体的には、動物・植物・天文・電子工作等の諸分野に興味を持つ地域住民が交流し合える受け皿として博物館が機能し、その交流過程において、学校や仕事以外の面で各人が持っている技能や知識を発揮できる場となるべく、教育普及活

表1 平成10年度教育普及活動

	業務名	主な業務内容	備 考
①	博物館講座の実施	・年間の講座計画の策定 ・講座の広報 ・講座の管理運営	54講座/年 受講手続き・講座運営等
②	学術講演会の実施	・講師の選定 ・講演会の広報(受講者募集) ・講演会の開催	年2回(夏・春) ポスター・各種チラシ 会場設営・行事運営等
③	印刷物の発行	・たより、年報、図録、各種広報資料等	編集・発送等
④	プラネタリウムの広報	・プラネタリウムの広報	ポスター・チラシ発刊(年4回)
⑥	映画会の開催	・年間上映計画、購入及び借入れ手続き ・映画会の広報 ・映画会の実施	年12回(第2土曜) 手製ポスター・チラシ 集客、上映
⑦	企画展の実施	・企画展の企画、運営 ・企画展の広報	ポスター・チラシ他、広報活動 展示監視員等
⑧	特別展の実施	・特別展の企画、運営 ・特別展の広報	「自然科学写真協会写真展」 「川の生き物」「愛媛の鉱山」
⑨	展示案内に関すること	・展示案内員の管理 ・ 〃 研修	
⑩	学校との連携業務	・学校団体の受付管理 ・学習ノート発刊	来館予約の受付、データ化 小中学校用
⑪	友の会の管理運営	・会の広報 ・会員管理 ・年間行事の計画と実施	会員募集、会報作成など 文書発送、会員証作成など 25講座/年(天体観望会他)
⑫	各種事業の実施	・共催事業の実施 ・館主催事業の実施	各種科学系財団等との共催 ロボット相撲等
⑬	博物館実習の実施	・実習生の受入れ ・カリキュラムの作成	実習実施の窓口
⑭	他の博物館との連携	・博物館団体との交流 ・他館資料の収集整理	日博協・全科協・全科携等

(注)⑦⑧の展示の実施主体は学芸課

動（博物館講座や友の会）を実施しております。既に友の会の枠内ではありますが、天文好きが集まって「天文クラブ」が設立され、また、科学に興味のある会員の手による「科学クラブ」も11年4月より設立予定です。こうした、地域社会を横断する「クラブ的機能」を通して様々な能力を持った地域住民が参集し、博物館を軸とした新しい価値観を創出すべく、教育普及活動を行っております。

3. 教育普及活動の具体例

総合科学博物館における教育普及活動は、表1の通り多岐にわたります。ここでは、代表的な活動として、博物館の広報・博物館講座の管理運営・展示事業の実施（企画展、特別展等）・科学講演会実施・友の会運営を紹介します。なお当博物館においては、教育普及活動は振興課企画普及係（学芸員3・事務職1・臨職1・展示案内員15）の担当となっています。ただし、展示事業については広報等を除いて学芸課の担当です。

(1) 博物館の広報

入館者増や集客は勿論のこと、館の事業内容を地域住民や団体（役所・学校・社会教育施設等）に知って貰うことをも目的として各種広報資料を刊行・配布し、事業効果を高めています。広報関係の印刷物には、館の概要や事業全体を紹介する年報及び博物館だよりと、教育普及活動に関わる各種事業（講座・講演会・展示等）の周知手段となるチラシ・ポスターなどを、県内外の博物館・役所・学校・各種社会教育機関等に配布しています。

広報の方針は、当たり前のことではありますが、「効果を見込める対象に対して効率的に広報を行う」という考え方で対処しております。例えば、博物館講座の受講対象は主に小中学生とその保護者なので、博物館から1時間圏内にある県東部地域及び中部地域（松山市近辺）の小中学生に年4回、講座のチラシが1枚ずつ手元に届くよう、配布手段をシステム化（博物館（発注）→印刷所（印刷・梱包）→配送業者（配送）→小中学校→生徒／但し、一部市町村教委経由）し、短期間で効率的に広報を行っております。これは、年1回の企画展の場合も同様で、子どもを含む家族連れを観客動員の主な対象としているので、同様の方法でチラシを届けています。また、学術講演会の際には、講師の専門分野に応じて、関連の学会・団体・機関等に広報するなど、弾力的に対応しています。勿論、チラシだけで

なく各種広報媒体（放送・各種雑誌類・バス広告等）を使っている広報活動も広く行っております。

(2) 博物館講座の管理運営

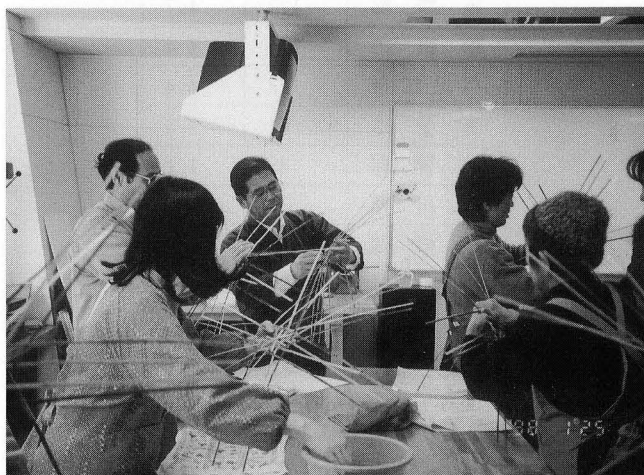
当館では、6種類の博物館講座（自然科学教室・自然観察会・天体観測会・科学工作教室・科学実験教室・産業講座）を、年間54講座開催しています。講座を開催するにあたっては、次の3点を基本方針としています。



自然科学教室「昆虫の標本をつくってみよう」



科学工作教室「ペットボトルロケットをつくろう」



産業講座「伊予の竹工芸今昔」

①学校で実施しないプログラム

野外での自然観察・標本作成・天体観測・電子工作・産業見学等のように、学校教育では体験できにくい講座を実施し、社会教育施設としての博物館の役割を果たしております。

②参加体験型講座

室内で講師の話を聞くだけでなく、実際に観る・触る・作るといった五感を通した体験型講座を実施しております。

③子どもの長所を伸ばす指導

小中学生の受講者に対しては、自主性や創造性を伸ばす指導（ほめる・叱らない・点数を付けない）を行う。

講座の応募者は全てパソコン上でデータベース化し、応募者整理・受講通知・名簿と名札の印刷・追加募集等を効率的に行っています。講座の現場指導は、外部講師＋学芸課学芸員（2名）＋企画普及係（1名）で行いますが、科学工作及び実験教室は全て当館学芸員が実施し、他の講座も外部講師の比率は徐々に低くなっています。今年度の講座の応募状況は表2のとおり、チラシの配布地域に対応した1時間圏内の市町村がほとんどですが、少数とはいえ香川県等近隣県からの応募があります。講座実施の際には、毎回受講者へのアンケート調査を行い、その結果をデータベース化し講座の企画運営面にフィードバックしています。

表2 平成10年度講座応募者(H11.1.31現在)

住 所	件 数	%
新 居 浜 市	1,077	41.4
西 条 市	323	12.4
今 治 市	256	9.9
周 桑 郡	174	6.7
伊予三島市	148	5.7
宇 摩 郡	123	4.7
松 山 市	115	4.4
川 之 江 市	113	4.4
東 予 市	61	2.3
越 智 郡	45	1.7
香 川 県	36	1.4
そ の 他	128	5.0
合 計	2,599	100.0

(3) 展示事業の実施

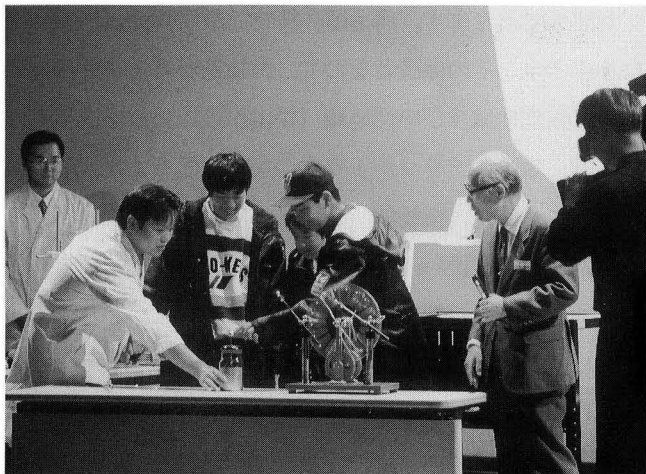
博物館にとって、企画展や特別展などの展示事業を通して、学芸員の学術研究成果を地域住民に分かりやすく還元するのは大切な業務です。当館においても、年1回の企画

展と3回程度の特別展を開催し、研究成果の還元をするとともに、親しまれる博物館づくりにも成果をあげています。

企画展は予算・広報の面でも1年を通して最大の事業であり、毎回4～5万人の入館者を集めています。企画展では、資料収集と展示の企画・実施を学芸課の3研究科（自然・科学技術・産業）が毎年研究テーマに応じて交代で担当します。また、企画普及係が広報を担当し、館を挙げて地域社会、ひいては全国へ情報を発信しています。当館においては企画展以外にも館蔵品展・巡回展・写真展等様々な展示事業を開催しています。当館では便宜上これらを特別展として分類し、企画展と区別しています。予算や広報の面では企画展ほどの費用をかけてはいませんが、特別展もまた博物館から地域社会への情報発信の手段としての役割を果たしています。

(4) 学術講演会の実施

地域住民に最先端の科学情報を提供するために、年2回、学術講演会を開催しています。この他に、講演会に類するシンポジウム（基調講演）や科学実験講座も含めて学術講演会としてまとめると、表3のようになります。講演会の講師には県外在住の各専門分野の第一人者を選定し、地域住民への情報発信を行い、また、科学に関する興味や関心を高めるべく色々工夫をしています。中でも「おもしろ科学講座」では、世界的な物理学者である有馬朗人前館長が、実験をしながら電気やエネルギーに関する科学法則を小中学生に分かりやすく解説し、大変好評を博しました。このように、種々の専門分野のエキスパートが、初心者に分かりやすく科学の基礎を解説し、教育効果をあげることができるのも、学術講演会の特長だと考えています。



おもしろ科学講座「科学の不思議さおもしろさ～電気・磁気・電波～」

有馬館長(右端)の指導で静電気の実験をする当館学芸員と小中学生(H10.1.25)

(5) 友の会の運営

博物館と地域住民をより身近に結び、博物館に一層親しんで貰うための組織として、平成7年度に「友の会」を設立しました。現在、企画普及係学芸員（1名）と専従職員（1名）が、友の会事務局の業務を担当しています。友の会に入会すると、常設展・プラネタリウムの無料観覧、ミュー

ージアムショップ・レストラン割引、友の会講座への参加等の特典があり、会員は年々増加しています（表4）。



友の会工作教室「親子でつくろうウッドクラフト」

表4 愛媛県総合科学博物館友の会会員数

年度	個人会員 (人)	家族会員		賛助会員 (団体)	合 計	
		(組)	(人)		件数	人数
7	68	269	1,235	44	381	1,303
8	61	314	1,456	45	420	1,517
9	52	342	1,556	43	437	1,608
10	62	352	1,614	39	453	1,676

表3 これまでの学術講演会等の講師

講 師 名	演 題 (開催日)	分 野
有 馬 朗 人 (当館館長)	科学の楽しさ (H7.2.11/開館記念シンポジウム基調講演)	物 理 学
荒 巻 重 雄 (東京大学名誉教授)	火山噴火のメカニズム (H7.8.19)	地球科学
菊 池 健 (元高エネ物理研副所長)	物質と宇宙 (H7.11.11)	物 理 学
小 尾 信 彌 (放送大学学長)	ビッグバン宇宙と私たち (H7.12.17/プラネタリウム記念シンポ基調講演)	天 文 学
中 村 桂 子 (生命誌研究館副館長)	生命誌の扉をひらく (H8.3.10)	生命科学
小 畠 郁 生 (元国立科博研究部長)	恐竜の謎にせまる (H8.8.4)	古生物学
有 馬 朗 人 (当館館長)	科学の楽しさ大切さ～熱とエネルギー～ (H8.8.8/おもしろ科学講座)	物 理 学
有 馬 朗 人 (当館館長)	日本人と独創性 (H8.11.9)	物 理 学
黒 田 玲 子 (東京大学教授)	右の世界左の世界～分子レベルの対称性の不思議～ (H9.3.9)	生命科学
種 村 直 樹 (レイルウェイライター)	日本の鉄道ぶらり乗り歩き (H9.7.26)	鉄 道
西 澤 潤 一 (前東北大学総長)	日本の科学技術と未来 (H9.11.3)	電子工学
有 馬 朗 人 (当館館長)	科学の不思議さおもしろさ～電気・磁気・電波～ (H10.1.25/おもしろ科学講座)	物 理 学
伊 沢 紘 生 (宮城教育大学教授)	サル社会の論理と人間社会の論理 (H10.3.14)	動 物 学
森 本 雅 樹 (兵庫県立西はりま天文台公園長)	私たちの宇宙旅行 (H10.8.12)	天 文 学
海 野 和 男 (昆虫写真家)	昆虫の魅力に迫る (H10.10.12)	昆虫写真
安 田 喜 憲 (国際日本文化研究センター教授)	文明と環境 (H11.3.27/予定)	地 理 学

友の会では、天体観望会や科学教室など年間25講座（表5）を開催し、会員は様々なイベントに参加することができます。友の会の講座では、博物館の事業では対応しにくい野外での夜間観望会や、他県博物館への研修旅行、小中学生だけでなく大人も参加できる科学工作教室なども開催しています。

また、友の会の特長は、「クラブ」を設置していることです。現在のところ、会員の中の天文好きが集まって天文クラブを結成し、友の会の天体観望会（年6回）の企画運営や、クラブ独自の活動（天体観測・合宿等）を行っています。天文クラブには、天体観測のベテランから初心者まで様々なクラブ員（現在36名）が、各自の能力に応じて楽しみながらクラブの活動をしつつ、観測技術や知識の向上を図っています。友の会では、平成11年4月を目処に、2つ目のクラブとして「科学クラブ」を設立する予定です。天文クラブと同じく科学クラブも、友の会の中で科学工作や実験に興味を持っている会員が集まり、友の会の科学教室（年4回）の企画運営、科学に関する研究発表、科学イベントの企画運営等、科学に関する様々な取組みをする予定です。友の会のクラブは、地域住民が学校や仕事以外の分野においても能力を発揮するための受け皿として機能し、新しい価値観や評価基準を生み出す場となるべく活動しています。今後、天文・科学に次いで第三のクラブとして、生物・地学関係の自然観察や研究を行う「自然クラブ」も設立する予定です。

表5 平成10年度友の会年間行事表

日 程	講 座 名 (内 容)	講 師	時 間	定 員
6/28 (日)	例会「娘にも目を向けてみませんか」 「サギのコロニー」	三木会員 山本学芸員	13:00～14:00	なし
7/19 (日)	企画展見学会「たんけん!超ふしぎ館」	久松学芸員	11:00～11:30	30名
	例会「地球の宝さがし」 「紙の種類あてクイズ」	神野会員 橋本学芸員	13:00～14:00	なし
	企画展見学会「たんけん!超ふしぎ館」	久松学芸員	14:30～15:00	30名
7/30 (木)	自然教室「夜の昆虫採集」	自然研究科	19:30～21:00	50名
8/2 (日)	工作教室「親子でつくろうウッドクラフト」	田中会員	10:00～16:00	10組20名
8/9 (日)	企画展見学会「たんけん!超ふしぎ館」	進学芸員	11:00～11:30	30名
	例会「天体望遠鏡のつくりかた」 「超能力は存在するのかもしれないのか」	西田会員 篠原学芸員	13:00～14:00	なし
	企画展見学会「たんけん!超ふしぎ館」	進学芸員	14:30～15:00	30名
8/15 (土)	科学教室「きままな観察会	田島学芸員	10:30～12:00	なし
8/16 (日)	～はくわのわたしの博物館～ 折り紙で動物園や植物園をつくろう」		13:30～16:00	
8/23 (日)	研修旅行「面河山岳博物館見学」	—	9:00～17:00	50名
8/29 (土)	天体観望会「月面の観察と夏の星座」	天文クラブ	19:30～21:00	30名
9/13 (日)	例会「月面ウォッチング」 「身近なキノコの話」	真鍋会員 小林学芸員	13:00～14:00	なし
9/26 (土)	天体観望会「月面の観察と夏の星座・木星」	天文クラブ	19:30～21:00	30名
10/24 (土)	天体観望会「木星・土星・星雲・星団」	天文クラブ	19:00～20:30	30名
11/14 (土)	天体観望会「秋の星座と木星・土星」	天文クラブ	19:00～20:30	30名
11/23 (月)	科学教室「風船の科学」	藤本学芸員	13:30～15:00	20名
12/13 (日)	研修旅行「五十崎風博物館見学」	—	9:00～17:00	50名
12/19 (土)	天体観望会「木星・土星・星雲・星団」	天文クラブ	19:00～20:30	30名
12/23 (木)	工作教室「光電池工作」	田中会員	13:00～16:00	20名
1/15 (金)	例会「身近な自然観察～石・化石～」	山根学芸員	13:00～14:00	なし
	「ペットボトルロケットをもっと飛ばすには!」	渡辺会員	14:30～16:00	
	科学教室「染色を楽しもう」	藤本学芸員		
1/24 (日)	天体観望会「天体望遠鏡の製作及び月面の観察」	天文クラブ	16:30～19:30	20名
2/28 (日)	研修旅行「桂浜水族館見学」	—	9:00～17:00	50名
3/14 (日)	例会「フーメランはなぜもどってくるのか」 「見る、さわる愛媛の鉱山」	近藤会員 藤本学芸員	13:00～14:00	なし

4. 今後の教育普及活動のあり方

当博物館では開館以来、教育普及活動を中心とした運営を行い、これまで述べた、館の学芸活動の成果の還元・集客広報・新しい価値観の創出といった基本的考え方のもとに各種事業を行っています。今後は更に、現代の時流となっている情報化時代・生涯学習の時代・学校週5日制導入といった社会の動きに対応した運営を考えていかなければならないと思います。

例えば、情報化時代を迎え、博物館と地域社会との情報のやり取りをオンライン化し、パソコンで手軽に博物館情報を入手できる環境になりました。こうした時代を迎えたからこそ、更に一層、血の通った人間本位の博物館事業が必要になるのではないのでしょうか。例えば博物館講座では、自然や科学の不思議さ・面白さを体感し、受講者の感

性を刺激するようなプログラムの提供が益々求められると思います。また、日常生活では味わうことのできない知的興奮を、各種事業を通して地域住民に提供する必要性も、益々高まっていくと思います。また、生涯学習時代を迎え、社会の第一線を退いた高齢者が持つ知識や技術を、若い世代に「還流」させる受け皿として博物館が機能するために、ボランティアの導入と活用も更に期待されます。また、学校週5日制の導入が目前に迫り、児童生徒が持つ潜在力を引き出す「創造の場」の一つとして博物館が一層期待されます。当館では、以上のような見通しを持って教育普及活動を展開していきたいと考えております。

(振興課 企画普及係長 岩田憲二)

— 全 科 協 情 報 —

○巡回展「ふしぎ大陸 南極展」について

今年度から実施している巡回展「ふしぎ大陸南極展」は、平成11年3月7日から同年4月6日まで神戸市青少年科学館で開催されます。

○巡回展「さわるう・ためそう かたちと数のワンダーランド」について

平成11年度からの巡回展実施にむかって、現在、展示制作及びマニュアルの作成、募集要項の検討を行っています。

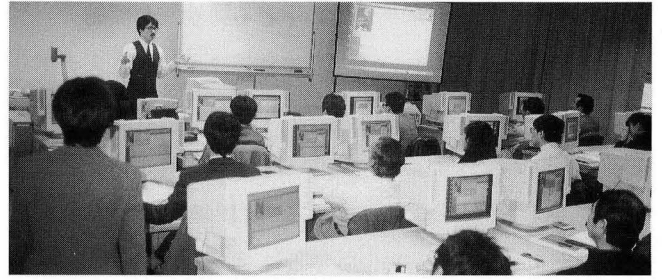
各加盟館園へは3月中に「募集要項」「展示内容の概要」を送付する予定ですので、ご協力をお願いします。

○科学系博物館ホームページ活用研修会について

科学系博物館の総合的な開発・高度化支援事業として、マルチメディア技術を活用したホームページの作製手法等に関する研修会(中級編)が、平成11年1月27日から1月29日までNTT麻布セミナーハウスにおいて開催されました。

○海外科学系博物館視察研修について

平成10年度海外科学系博物館視察研修は、平成11年1月



ホームページ活用研修会

11日から1月24日まで北米地域(アトランタ、ヒューストンなど)の科学系博物館を訪問し、キュレーターなどの職員の方々と意見、情報交換を行いました。2月26日には事後研修会を開催し、研修者相互での研修成果の交換などを行いました。

○全科協総会及び研究発表大会について

平成10年度第2回総会及び第6回研究発表大会は、次のとおり開催します。

期 間 平成11年3月10日(水)～3月12日(金)

会 場 滋賀県立琵琶湖博物館(滋賀県草津市)

めざすのは
「小宇宙」の実現です。

NOMURA

株式会社 乃村工藝社

本社/東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話03-3455-1171代
ホームページ <http://www.nomurakougei.co.jp>

ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング・
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工



COLORATA.

ミュージアムグッズの企画・制作・販売・輸入

カロラータ株式会社

本社・企画室

〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル
TEL.03-3865-8110 FAX.03-3864-4049

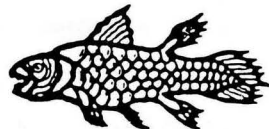
営業部・商品管理部

〒136-0072 東京都江東区大島2-13-11
TEL.03-3684-8311 FAX.03-3684-8310

美術

は く 製

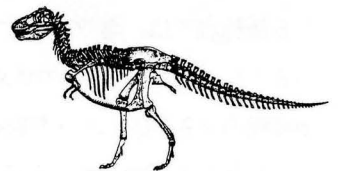
〈各 種 生 物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース



有限 東洋近代美術研究所
会社

製作所 〒272-0816 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎047-337-5678
☎047-337-5883
FAX 047-338-1978
本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式 ゼネラル サイエンス
会社 コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

海 外 ニ ュ ー ス

安井亮事務所

米ボルチモアに、全米第2位の子ども博物館が開館

アメリカで最も大きい子ども博物館はインディアナポリス子ども博物館(延床面積37,760平方メートル/年間総入館者数130万人)であるが、1998年12月に、首都ワシントンに近い港町ボルチモアにこれに次ぐ規模の子ども博物館(延床面積8,000平方メートル)が開館した。新しく開館した『ポート・ディスカバリー』は、ボルチモアのウォーターフロントにあった古い魚市場の建物を再利用したものであり、ボストン子ども博物館の元館長のマイケル・スポック氏を総合プロデューサーに迎えた。常設展示は全てディズニー・エンジニアリング社が手がけた。常設展示の対象年齢は6才から12才迄に設定されており、「遊びながら学ぶ」の理論が全体を通じて忠実に再現されている。中でも目玉展示の『キッドワークス』は、三層にわたって、さまざまな道具、橋、梯子、滑降斜面、網によって構成された構造体だ。子どもは、ただ遊ぶだけでなく、この構造体の頂上に設けられたゴールをめざして数人で共同で進むことが要求されている。同館は、近接するボルチモア水族館やボルチモア美術館との間で、観光資源を共有化するために、多くの共同事業が計画されている。年間50万人の来館者が見込まれているが、その多くは地元だけでなく観光客が占めるだろうと予想されている。

Port Discovery: The Children's Museum in Baltimore

米シリコンバレーのテック博物館が新装開館

移転に伴う大々的な新装工事が進められていたテック博物館(カリフォルニア州サンノゼ)は、このほど1998年10月に再開館した。市中心部に移った新しい立地場所では、それまでの規模が延べ床面積約2,000平方メートルから13,200平方メートルに大々的に拡張された。4フロアよりなる新施設では、各フロアごとに展示テーマが設けられている:『シリコンバレーの将来』・『コミュニケーション:地球規模のコネクション』・『機械としての人体』・『最先端技術とこれからの開拓分野』。同館は、サンノゼ市の都市再開発整備事業の一環で行われ、総事業費の大部分はサンノゼ市から支出されている。同館にはアイマックス劇場も併設されている。Tech Museum of Innovation

米バーミンガムに、新しい科学館が開館

アラバマ州バーミンガムの中心部に、1998年7月にマッ

クウェイン科学館が開館した。295席のアイマックス劇場を併設した新施設では、900平方メートルのスペースに参加体験型の科学展示『サイエンス・クエスト』が目玉展示として設けられ、その他に世界各地からもってきたさまざまな海洋生物を紹介する『ワールド・オブ・ウォーター』と宇宙旅行のシミュレーションが楽しめる『チャレンジャー・センター』が設けられている。同館はもともとバーミンガム市内にあった二つの人気が高い非営利組織の博物館が合併したものである。現在第2期の拡張計画が検討されており、将来展示施設が拡充される他、科学実験室、教師研修センターも併設される計画だ。McWane Center

米タイラーの科学館で、航海術を紹介した特別展が開催中

ディスカバリー・サイエンス・プレース(テキサス州タイラー)で、航海術を紹介した特別展『アブドゥール船長の海賊学校 Captain Abdul's Pirate School: Charting the Course』が1999年8月まで開催されている。同展は、児童作家のコリン・マックノートンが書いた同名のベストセラーにもとづいており、子どもを対象に、昔から航海術で使われた星を使った航海機器、海図の読み方、コンパスの使い方、人工衛星やコンピュータを使った最新の航海術の紹介をしている。中でも最も人気があるのは、ジャイロスコープの操作だ。一見難しそうに見えるジャイロスコープだが、意外に簡単に操作できることが人気の理由だ。同展は、ドン・ハリントン科学館(テキサス州アマリロ)が企画した巡回展であり、すでにアーカンサス子ども博物館(アーカンサス州リトルロック)、デラウェア自然史博物館(デラウェア州ウィルミントン)、フォートワース科学・歴史博物館(テキサス州フォートワース)で開催され、人気を博した。

米オマハ子供博物館で、工事現場を紹介した特別展を開催

オマハ子供博物館(ネブラスカ州オマハ)で、建物の工事現場でさまざまな科学の原理を探索するユニークな特別展が開催された。同展では、建物を作るのに使われるさまざまな材料や大工仕事、レンガ職人の技術で用いられる科学が紹介され、また滅多に見られない建物の電気配線、上下水道の配管なども紹介された。同展はまた建物の建設に従事する建築家、大工、レンガ工、電気工事や水道工事に従事する人々をも紹介するねらいが込められている。同展

は、マンシー子ども博物館（イリノイ州マンシー）が企画した巡回展であり、すでにグリーンズボロ子ども博物館（ノースカロライナ州グリーンズボロ）で開催され、人気を博した。

ロンドン科学博物館、オンライン展覧会を計画中

ロンドン科学博物館と米フランクリン科学館（ペンシルバニア州フィラデルフィア）は、現在それぞれが所蔵している豊富な航空関連の実物資料の情報を使って、双方で同時開催のオンライン展覧会『フライツ・オブ・インスピレーション』（Flights of Inspiration）を準備している。1999年春には、インターネット上だけでなく、双方の展示ホールでも見られることになっている。

助成事業の情報が見られる全米科学振興基金のホームページ

米政府が直接運営している全米科学振興基金（National Science Foundation、ワシントン DC）は、アメリカの多くの科学系博物館の展覧会企画、教育プログラムに幅広く助成していることで知られている。このほど同基金のホームページ（<http://www.nsf.gov>）で、全助成物件を掲載したページが開設され、助成の対象となった過去と現在の事業の内容が公開された。

科学博物館等のホームページ

Arkansas Museum of Discovery, Little Rock USA
www.amond.org
 Children's Science Center, Cape Coral USA
www.cyberstreet.com/csc
 Coyote Point Museum for Environmental Education, San Mateo USA
www.coyoteptmuseum.org
 Discovery Museum, Bridgeport USA
www.discoverymuseum.org
 Discovery Science Center, Santa Ana USA
www.qo2dsc.org
 Fairchild Tropical Garden, Miami USA
www.ftg.org
 FOCUS Center, Fort Walton Beach USA
www.arc.net/community/focus
 Humboldt State University Natural History Museum, Arcata USA
www.humboldt.edu/~natmus/
 Jet Propulsion Laboratory, Pasadena USA

www.jpl.nasa.gov
 Lindsay Wildlife Museum, Walnut Creek USA
www.wildlife-museum.org
 Miami Museum of Science & Space Transit Planetarium, Miami USA
<http://miamisci.org/>
 McWane Center, Birmingham USA
<http://www.mcwane.org>
 Mid-America Science Museum, Hot Springs USA
www.directlynex.net/~masm
 National Geographic Society Explorers Hall, Washington DC USA www.nationalgeographic.com
 Royal Observatory Visitor Centre, Edinburgh UK www.roe.ac.uk/visitor_centre/
 San Francisco Zoological Gardens, San Francisco USA www.sfzoo.com
 Santa Barbara Botanic Garden, Santa Barbara USA
www.sbbg.org
 Sci-Quest, Huntsville USA
www.hsv.tis.net/~sciquest
 Science Center of Connecticut, West Hartford USA
www.sciencecenterct.org
 Science Center of Eastern Connecticut, New London USA www.scec.conncoll.edu
 Sony Wonder Technology Lab, New York USA
www.wondertechlab.sony.com
 TECHNIQUEST, Cardiff UK
www.tquest.org.uk
 U.S. Space & Rocket Center, Huntsville USA
www.ussrs.com
 Ventura County Discovery Center Thousand Oaks USA
www.vcnet.com/SciFox
 Virginia Museum of Natural History, Martinsville USA www.vmnh.org
 *安井亮事務所：Fax.042-736-5916
 E-mail:QFH03327@nifty.ne.jp

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

株式会社 丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)
札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡
URL <http://www.tanseisha.co.jp>



INTERIOR / EXTERIOR / DESIGN / EQUIPMENT

ONY KOBO CO., LTD.

東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル
TEL (03) 3221-1102(代) FAX (03) 3221-1185



動物園／水族館／博物館
企画・設計・施工

本 社 〒151 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
-0051 TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745
株式会社 **東京サイエンス** ショールーム 紀伊國屋書店新宿本店1F TEL.03-3354-0131(大代表)

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



Fossils, Minerals & Rocks

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

縮尺: 実物の40分の1 精密教育用モデル、大英博物館製作による刻印入

「全科協ニュース」を皆様の情報交換の場としてご活用
ください。資料や情報の提供、標本などの借用希望、事
業案内、ご意見、ご提案など皆様の原稿をお待ちしてお
ります。

第165号の特集は、愛媛県総合科学博物館が
担当しました。

このニュースは再生紙を利用しています

感じる科学

動刻

▲恐竜ロボット
ティラノサウルス



▲人体型ロボット
コスモ博士(宮崎科学技術館)

文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

kokoro 株式会社ココロ

〒205-0023 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL0425(30)3911(代)・3939(営業)
FAX0425(30)3900・3927(営業)